

第 58 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第五八回 2013 年 5 月 18 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、黒川、杉本、高市、夏目、浜田、宮川、山本(8 名)

1. テーマ：東日本大震災が企業経営に与えたリスクと損害の中間集計

(危機管理システム研究学会・年次大会報告の中間報告)

- ・報告者：高市幸男 ・配布資料：23 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災後に倒産した企業の特徴と、東日本大震災が及ぼした企業経営への影響について、集計および分析をおこなったものである。分析した結果は、間接的理由により倒産した企業が多く、直接的理由により倒産した企業が少ない傾向にあることが判明した。東北被災地では、震災復興のために、建設業、サービス業、不動産業の増収傾向である結果となったが、その反面、運輸業、製造業の回復は鈍い傾向にあることを考察した。

2. テーマ：収益認識をめぐる国際的動向と日本の企業会計に対する影響

(危機管理システム研究学会・年次大会報告の中間報告)

- ・報告者：浜田勇毅 ・配布資料：12 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、会計基準の変更により生じる企業業績への影響について検討したものである。日本の企業会計において、国際会計基準の導入議論が生じる理由についてレジエント問題から経緯を探り、IFRS 早期導入企業の特徴を分析した。また、IFRS 早期導入企業の特徴を踏まえ、財務数値、収益性の観点でその影響を明らかにした。

3. テーマ：急激な信用低下に対応できる企業評価法

(危機管理システム研究学会・年次大会報告の中間報告)

- ・報告者：井端和男 ・配布資料：10 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、業績悪化を予知するために、急激な業績悪化企業の実態とその予知法について事例をもとに分析したものである。事例研究をもとに、損失の継続が構造的なものであることを早期に察知し、「5 年の法則」、「30/10 の法則」の評価方法の必要性を論究している。

4. テーマ：2013 年度の対象企業と担当者の検討

(文責：浜田勇毅)